

こんかいのゾーン



メンバー活動報告 -インド旅行紀-

夏休み、インドに行って来ました。デリーに始まり、タージマハルで有名なアグラ、ガンジス川ほとりの街バラナシ、そしてコルカタを回りました。デリー郊外に作られたベッドタウンにおける大規模開発や、アグラ中心部の衛生状況の悪さなど都市開発やまちづくりの観点から見て非常に興味深いものが多かったように思います。途上国におけるまちづくりに関心があった自分は、スラムと呼ぶことができるような地区を歩き回る中で改めて自分が何をしたいのか考えさせられました。

インドで感じたこと。一番大きかったのは次の一言に集約されます。「線引け」。お笑い芸人の千鳥を好きな方にはお馴染みのノブのツッコミです。インドで何度これを思ったことか。いや実際につっこんだことか。

街を歩いているとすぐに気付くこと。ヒन्दウー教にとって神聖な動物である牛が街中に溢れかえっています。歩道車道を問わず、時には路地を封鎖されることも。いや「線引け」。ここは街のはず。車道では事故の危険性も上がるし正直不便でしかありません。

もう一つ歩いていると気付くこと。車線がない。文字通り「線引け」。車とバイクとトゥクトゥクとリキシャーと自転車と歩行者。多種多様な交通手段が秩序なく我先にと追い抜き合っています。カオスとはこのためにある言葉なのか。

滞在中日本語を教えるボランティアをしました。そこで出会った日本語が上手なインド人男性。親切に案内してくれたり楽しく会話していると思いきや、彼のお店に連れて行かれました。本物のシルクを使用しているそうで確かに品質は良い感じ。でも適正価格など知らないの、心からの親切心で接してくれているのか、はたまた普通に騙されているのかさっぱりわからない。ビジネスとプライベートの「線引け」。トゥクトゥクドライバーも含め皆そこが曖昧な気がしました。

まだまだある「線引け」。これは当然、線を引いているのが良いという問題ではありません。人間と動物、ビジネスとプライベート、家の内と外、生と死。いろんなものの間に線が引かれていない。それがインドの大きな特徴なのかなと感じた滞在でした。

SCHEDULE

日付	予定
10/22	月 まちあるき
10/23	火 ワークショップ
10/24	水 定例ミーティング
10/25	木
10/26	金
10/27	土
10/28	日

こんかいの一言▽井上：新しいiPhoneを買いました。▽櫻本：ようやくバチェラー2を半分視聴することができました。推しが次々消えていくのは悲しい気持ちです。▽木村：初めて飲食のホールを経験しましたが、嘔みまくりました▽原：愛媛県内子で薪で火を起こさないとシャワーに浴びれない宿に泊まっています。▽秋月：タフさが求められる季節です。▽時丸：飲み屋同士の横の繋がりがどうやってできるのでしょうか。▽植田：久しぶりにバンドスタジオに行ってセッション練習をしてきました。▽久保田：茨城の田舎に帰りました。自動車移動と大型SCのありがたみを感じてしまい、まちづくりの学生として反省しました。